

# メンテナンスを見直してトータルで手を入れる

## 燃費改善への道 Part.02

燃費を少しでも改善させるためにはクルマ全体の状態を見直しておく必要がある。不具合を抱えたままでは燃費は決して良くならず、クルマ自体も不調に陥ってしまう。

文= GERMAN CARS 撮影= G.C.E.  
協力=セントラルオート (TEL.03-3883-9922)



### 良い空気、良い燃料、良い混合気 3つの要素を見直すことが重要



プラグとイグニッションコイルを繋ぐのがハイテンションコード。これに不具合が起きるとプラグの点火不良などを引き起こす原因となる。



デスピキャップ、ローターは点火系の要となるパーツ。劣化が進むとアイドリング不調になりハンチングなどを引き起こす。



オルタネーターで発電した電圧を増幅する装置がイグニッションコイル。プラグやコードなどの点火系パーツを同時交換しておくべター。



壊れると費用が高つくイグナイター。エンジンが多発する場合は疑うべきポイント。中古品を車内に常備しておく安心だろう。



定期的な点検したい部分でもある燃料ポンプ。劣化が進むと燃料漏れを引き起こすことがあるので注意が必要だ。



燃料ポンプと同時に交換したいのが燃料フィルター。フィルターだけに定期交換部品であることを認識しておくこと。

消耗品に加えエンジンの点検も忘れずに行いたい

「燃費を良くするには、良い空気、良い燃料、そして良い混合気に戻すことです」こう語るのはメルセデス専門修理工場セントラルオートの児玉氏。ネオクラシック時代のメルセデスは、年式的に見てもクルマ全体をリフレッシュする必要がある。これを前提とした上で、燃費に効果的なメンテナンスポイントを聞いてみた。

「プラグ、ハイテンションコード、デスピキャップ、ローター、イグニッションコイルなどの点火系パーツ、燃料ポンプ、フィルター、リレー、フューエルデスピなどの燃料系パーツ、良い空気を得るためのエアフィ

### 排気ガスの状態にも 気を配ることが重要になる

ルターやエアバルブなどが要になっ てきます。これらをもう一度点検し、劣化しているパーツは交換しましょう。基本的なことですが見直しておくことが重要です。

もう一つ大切なのがエンジン。オイル漏れがひどかったり、アイドリングが不調のままでは、周辺パーツを新品に交換しても燃費は良くなりませんし、本来の性能を味わうことはできません。排気ガスが濃い場合や黒煙が出る場合も、何らかの原因で不完全燃焼を起こしているのので、排気にも気を配りたいですね」

ネオクラシック時代のメルセデスは、燃調が狂っているクルマも多いので、年々回くらは経験と知識がある修理工場で調整してもらおうと良い。また、消耗品の交換が2巡目以上になっているクルマが多いので、もう一度クルマ全体を点検し、メンテナンスプランを見直す必要がある。消耗品を二気に交換し、交換サイクルをゼロリセットすることも有効な手段だろう。

クルマが快調であることが燃費の向上に繋がるので、突然燃費が悪くなった、排気ガスが濃いなどの症状が出たら、早急に修理工場で見てもらうのが得策だ。

### W114は想像以上に維持しやすい!?

セントラルオートの工場長である江澤氏はクラシック＆ネオクラシックへの愛をこよなく愛する人。そんな同氏の雑談に出てきた話を紹介しよう。

W114という年式的にも古く維持が難しいと思いがちだが、実はそうでもないらしい。むしろ「W201やW126より維持しやすいかもな」とまで言っていた。ポイントはキャブレターであること。季節の変わり目にはフロによる調整が必要だが、それさえキッチリとやっておけば普段乗りもOK。この時代のクルマってのは調子が悪ければ、必ず異音などの予兆があるから致命的になる前に対処できるんだよ。パーツだつて手に入るし、そんなに高くないし」と江澤氏は話す。分かります。直しやすい。長くメルセデスを直し続けてきた同氏の言葉だけに説得力があった。

今見ても優雅さを感ずるW114。信頼できる修理工場との付き合いがあれば、ネオクラ初心者でも怖くはないのだ。



### 取材中に見つけた気になるアイテム

#### 走行距離が進んだクルマに最適な添加剤 ワコーズ・クイックリフレッシュ

新開発のダイラタント流体ポリマーと高機能添加剤を配合した、多走行車に最適なエンジン機能回復剤。エンジンのコンプレッションを回復させ、ノイズの低減やオイル上がり、下がりを抑制する効果もある。エンジンの始動不良やエンジンノイズが気になる時などには試してみる価値アリだ。もちろんエンジンの点検も忘れずに行なうこと。



■価格:5,250円